

Youth Post

2023

4

vol.

108巻第4号 発行2023年11月1日

編集・発行 日本青年団協議会

〒160-0013

東京都新宿区霞ヶ丘町4-1日本青年館5階

TEL 03-6452-9025 FAX 03-6452-9026

MAIL dan_news@dan.or.jp

Web <https://www.dan.or.jp/>

「動」さあ、動き出そう



広場の中央で風船を空に飛ばす（さばえオータムフェア・福井県鯖江市）



ふとん太鼓をかつぎ練り歩く梅北青年団（月見祭・大阪府堺市）



奉燈に乗り指示を出す団長の瀬川翼さん
（千里浜海岸海浜浸食防止祈願祭・石川県羽咋市）

「Youth Post・ユースポスト」とは、青年の活動や想いが全国に届くことを願って、Youth・ユース（青年）とPost・ポスト（郵便物）を組み合わせせたものです。

本紙は、青年や青年団が全国でいきいきと活躍する姿を伝える日本青年団協議会の機関紙・広報紙です。

試される大地で生きる青年たち

〜農業と仲間と先輩と〜（北海道石狩郡新篠津村^{しんしのつ}）

9月末、北海道青年
団体協議会の阪光平会
長（40）と長沼町青年団
体協議会の団員は、新篠
津村の青年団員と、同村
教育委員会の宇山潤主事
との交流の場を持った。

◆農業と青年団

新篠津村は札幌市か
ら車で50分、人口は約
2,800人の村であ
る。村を拠点に活動す
る新篠津村連合青年団

は、第1地区と第2地区
の2つの地域団で構成さ
れる。22名の団員はほと



日頃から2つの地区が互いに情報を共有

活動に取り組む青
年団。子ども向け
の雪遊び事業「ち
びリンピック」や
車で片道5時間半
かかる湧別青年団
との交流、村およ
びの会に、高校生
とのeスポーツ大
会、青年大会……

刈りを終えた時期や積
雪の時期といった農閑
期に団の事業が集中し
ているのも、この村
の青年団ならではだ。

◆仲間と乗り越える

農閑期は4か月に
満たないにも関わら
ず、盛りだくさんの

んどが20代で、農家
や農協、役場に勤め
る。そのため団員らが
集まると、田植えの時
期や栽培している農作
物の品種のことなどが
よく話題に上がる。稲

他にも団員間の懇親も
忘れない。多忙な活動
の中心は、団内で招集
される選考委員会で選
考された役員10人が担
う。今年度から団長を
務める谷口和也さん
（32）は、頼れるお兄
さんの存在である。団
長の一生懸命な姿に触
発され、周りの役員
たちも共に支え合っ
ていこうと意気込む。

◆村全体で協力を

今年度79回目を迎
える連合青年団弁論大
会。村教育長も大会審
査員を務めるなど、村
にとってもその重要性
は明らかだ。かつて弁
論大会に力を尽くした

青年団のOBらは、現在
村内の要職に就く。村
長の石塚隆さんと村教
育長の荒谷順一郎さん
は、「自分の伝えたい



北海道新篠津村

内容を、人に伝わるよ
う言葉にする技術は、
生きていく上で大切」
と、自らの青年団経験
もふまえ力説する。そ
のため、村は団への協
力を惜しまない。例え
ば青年たちの教育に力
を注ぐため、道内外で
の宿泊研修へ支援した
り、団からの要望に応
え、村広報誌の1頁を
団に一任している。
右往左往しながら
熱心に取り組む青年団
と、温かい支援を行う
先輩たち。青年団の原
点であり、一つの手本
がそこにある。

お問合せ：新篠津村教育委員会社会教育係 Mail:shakaiky3@vill.shinshinotsu.hokkaido.jp



村自治センター前で行われた青空まつりでは、子ども向けにヨーヨー釣りをを行う



6名の参加者がしのぎを削った、令和4年第78回連合青年団弁論大会

「楽しい」で盛り上げる

地域文化の継承と、新たな試み

(石川県羽咋市)



納涼盆踊り前に焼き鳥とビールでパワーチャージ中

その目玉は、なんと
準備の様子
や練習風景を投稿し、「お祭り当日の姿だけでなく、日中の活動の姿を見ることができた」

日本で唯一、大型バスも走行できる砂浜として有名な羽咋市千里浜。その千里浜町内に5つある地区の青年たちが集う千里浜青年団は、同町を拠点に活動している。町では、毎年9月中旬に海岸侵食防止を祈願した秋祭りが開催される。

待感を高める青年団によるSNS投稿は、地元の人たちから好評である。準備の様子や練習風景を投稿し、「お祭り当日の姿だけでなく、日中の活動の姿を見ることができた」



等の反響があった。

今後に向けた課題を伺うと「みんなが楽しんでくれたから、課題はありません」と胸を張って語るのは、令和5年度の団長を務める瀬川翼さん(28)。秋祭りに向けた準備期間は苦労も絶えなかったが、青年団にとつて地域の人たちが楽しんでくれること以上に大切なことはない。青年団は大役を果たし、代替わりする。「先輩方が伝えてくれた素晴らしい祭りを、これからも引き継いでほしい」と団員一同が願っている。

● 番匠未樹支局員(石川県青年団協議会)より投稿

お問合せ: 千里浜青年団 Instagram @chirihama_seinendan

月見祭は再会の場所

脈々と受け継がれる地域のまつり

(大阪府堺市)



再会して、すがすがしい表情を見せる団員ら

15〜26歳の男性で構成されている。青年団だった父親や祖父から影響を受け入団する者が多い。卒業

大阪のまつりといえど何を思い浮かべるだろう。天神祭やだんじりだろうか。百舌鳥梅北町で活動する梅北町青年団は、中秋の名月前後に開催される月見祭で、ふとん太鼓と呼ばれる太鼓台を担ぎ練り歩く。百舌鳥八幡宮の氏子である9つの町それぞれのふ

とん太鼓がまちを練り歩き、八幡宮へと奉納する。来場者数は堺市のまつりの中でも最大規模と言われ、装飾の房が揺れる華麗さと鮮やかさが梅北ふとん太鼓の魅力だ。5枚重ねられた鮮やかな朱色のふとんは、神様が座る場所と言われる。団員数は約70人、



後は、青年団OBが所属する秋月会という新たな環境で後輩たちを支えながら、自らも神輿を担ぎ続ける。驚くべきことに、72歳のOBも現役だ。「年配と若者の意見を擦り合わせるから伝統を継承することには、難しさもあるが意味もある」と団長の石田亘輝さん(26)は語る。青年団の卒業まで約10年。その裏で、進学や就職で地元を離れる若者もいる。しかし月見祭の当日には、地元を離れた者も青年団員として地元に戻ってくる。月見祭は彼らの再会の場となり、地元の縁をつないでいく。

お問合せ: 日本青年団協議会 TEL: 03-6452-9025

地域活動ラボ

地域青年による活動はその多岐にわたる活動を通じて、まちや地域が活気づくだけでなく、人間関係の応答をとおして自分のできることが増えたり、視野が広がるという、いわば地域を担う者を育むという重要な意味を持つ。日本青年団協議会が主催する「全国地域青年『実践大賞』」は、各地の取組を集め、有識者によって評価される貴重な機会である。本企画では、実践大賞に応募された取り組みを審査に携わった審査員自らが分析し、活動の社会的な意義を明らかにしていく。第1回目となる本稿では、2022年9月に福井県鯖江市で開催された「さばえオータムフェア」について取り上げる。

◆さばえオータムフェアの概要

2022年9月17日〜18日、鯖江市連合青年団および鯖江商工会議所青年部、鯖江青年会議所で行われる鯖江実行委員会の主催で、「さばえオータムフェア」が鯖江市内の西山公園にて開催された。前年12月、コロナ禍前の活気ある鯖江を取り戻すために自ら火付け役となるべく、鯖江を思う人同士が集まった。団体の垣根を越え15人ほどで実行委員会を結成し、開催まで準備を進めてきた。

当日は飲食ブースのほかスケートボードなどの体験コーナー、フリーマーケットにステージパフォーマンス、コロナ後への願いを込めた参加者参加型のパネルなど、力を合わせて100を超える多彩な企画を実現した。各団体の得意分野が活き、団体間の考え方の交流にもなる、鯖江を盛り上げるために大事な協力関係を築いた。さらに交流を経た青年団にとって、自らの強みや魅力を再確認する機会となった。



自分たちの団体だけではできないことも、地元他団体と協力すれば実現できる。老若男女問わず誰もが笑顔になる事業を、力を合わせて実現した取り組みである。

◆解説・地域社会におけるこの取組の意義

萩原建次郎（駒澤大学）

ここでは、鯖江市連合青年団（以下、青年団と表記）が、同市の青年会議所（以下、JCと表記）と商工会議所青年部（以下、青年部と表記）と共に取り組んだ実践「さばえオータムフェア」の意義について解説する。

1. 活動・実践の自発性をめぐって

今回の「さばえオータムフェア」のきっかけは、実施一年前にJCから青年団にJC運動大会の誘いがあり、その後、青年部も交えた親睦会があったところにさかのぼる。親睦会の席で、どの団体主導というわけではなく、3団体メンバーから「来年の秋に何かしたいね」という声で生まれたのが今回の実践の始まりとなっている。加えて、3団体が以前から協力して活動してきた実績があったことも、今回の企画の下地となっていたことも見えてきた。

そのような流れの中で注目したいのが、青年団が要所でリーダーシップをとっていたことである。広報グループ、企画グループなどに分かれて企画の具体化を進める中で、気が付けば青年団が各グループのリーダーとなっていたという。地元企業や商店会への交渉や実行委員会の顔となるのは他の2団体にまかせつつ、各企画の実質的な構想や詰めは青年団が主導的に動く。これは当時の新聞記事を読んだだけでは見えてこない側面であった。

このように縁の下の力持ちとして、見えな

青年団活動は現代で言うSDGsなのか（まとめ）

2021年度から22年度にかけて、本紙4〜5頁では「青年団とSDGs」企画を連載してきた。青年団員が地域で取り組んできた様々な取り組みは、今というSDGsと言えるのではないかと問題意識から、企画を立ち上げた。

17あるターゲットのうち、これまでに取り上げてきたのはなんと12もある。外国籍の者に、同じ青年の立場から接していくことを皮切りに、特に地元の生活の延長線上にある領土問題、自分たちの声を政治にいかすための取組、子どもの貧困の解決、ゴミの減量やゴミ拾い、自分たちで植物を守り世代間交流につなげる取組、地元での生産から消費につなげるサイクル、取り組みの中で学びや明治神宮造営を通じたまちづくりと学び。私たちの様々な取り組みには、SDGsの要素が隠れていることが、2年にわたる本連載で明らかになった。青年団活動に世界が追い付いてきた、とも言えるだろう。

いとこで活躍する青年団は多いように思う。彼ら彼女らはそうしたことを積極的に語るわけではなく、「青年団は人生勉強」といいながら、あまりアピールすることがないという印象は、この20年の審査経験で感じてきたことでもある。外部から見ると「もつとアピールしたほうがいい！」と言いたいところだが、無理にアピールすることが青年団の大切な何かを疎かするような感覚もある。とかくプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、見栄えが賞揚される世の中で、現場感覚としては欠いてはいけない、大切な何物か。それを継承し、培っているのが青年団の良さのように思う。

2. 地域との連携の意義について

今回の実践の大きな特徴は、地元地域を元気づけるために、互いの組織理



数多くの企画の一つとして、鯖江のご当地ゆるキャラ(さばにゃん)も来場、子どもたちの笑みがあふれる

念や目的の違いを超えて、青年団、JC、青年部という代表的な地域青年団体が立ち上がったところにある。それには他団体との日頃からの関係の積み重ねが、相互の信頼関係を醸成していたことは改めて注目しておきたい。

二つ目は、時間・空間の隔たりをSNS・インターネットでつなぎつつ、顔の見える交流の場を実現させるという連携の手法を確立した点である。今回、SNSやインターネットのオンラインシステムの活用は欠かせなかったという。JCや青年部は自営業者が中心で、平日の日中も融通が利くメンバーが多い。一方、青年団は公務員や会社員が中心のため、週末か平日夜しか集まらない。会議スケジュールを合わせることが困難な中、その隔たりをSNS(二重)やインターネットの積極活用によって、資料の共有、情報共有をしつかりと行ったという。「二重」で頻りに情報交換し、資料共有も徹底する一方、Googleスプレッドシートなどを活用し、実行委員であれば誰でもいつでも見て、編集できるようにしたという。

3. 実践を通じた波及効果について

最後に、この実践による地域への波及効果について考えたい。一つは他団体と協働したこと、青年団自身の持ち味や強みを再認識、実感した点である。青年団が子ども企画に強いことや、素朴な交流を生み出し、人々がほっこりするような企画(メッセージボード設置など)を思いつくところは、一見地味に見える。多くのイベント参加者から喜ばれている。

来場者全員で製作したパネルも青年団の発案から生まれた



また、メンバーに会社員・公務員も多いためから、活動の段取りなどの手際のはきはきは青年団がリードした。一方で地元企業や商店会、地域関係各所への交渉はJCや青年部が強く、交渉の礼儀作法や話の通し方などは、青年団側がJCや青年部に学ぶところが多かった。

二つ目に、3団体の連携協働によって、多くの地域のステイクホルダーを巻き込む力を生み出した点である。今回のイベント後に、商店街連合会やまちづくりNPOからも声がかかるようになったという。市の商工観光課からも「オータムフェアで発揮した力を、市の事業でも貸してほしい」と声がかかり、行政主導だったイベントの実質的な企画運営を頼まれるまでになっている。

三つ目に、青年団に関心と寄せてくれる関係人口ならぬ「関係メンバー」が増えた点である。今回のイベントを通して団員となったのは1人くらいだが、その後の活動に来てくれたり、手伝ってくれる人が増えたという。団員として定着しなくても、関係性が育まれ、関係メンバーが増えたことは仲間づくりの新たな一歩となっている。

地域コミュニティの崩壊と人口減少が叫ばれて久しい。今の50歳の世代が200万人いるのに対し、2022年の出生数は77万人。この50年間で子どもの数は約4割になった。社会構造が大きく変わり、「持続可能な発展」というSDGsの旗印は、担い手不足という深刻な課題に直面する。

高齢化の進む地域で、誰がその中核を担うのか、もちろん地元で生活する青年である。いま、地域おこし協力隊やNPOをはじめ、地域で「格好いい」取組が広がっている。その中身は、かつて青年団が地域で取り組んでいた内容をほうふつさせる部分も多い。しかし見せ方が大事であることと同時に地元に住む者、特に青年が、自分たち自身や地域住民の欲求、悩みなどを活動にいかしていくことは、そのものが地域自治ではないだろうか。以上、本連載を通じて、青年団の取組が時代を先取りしていたことをご紹介してきた。青年団は今後も、持続可能な地域づくりの主役となる。

(文責 編集部)

社会で生きるために大切なこと

社会の最前線で活躍する方と語り、あらゆる角度から見つめ直す本企画。今回は、和歌山大学体育会サッカー部主将の東修斗さんと対談する。コロナ禍で危機に陥ったサッカー部は、ピンチをチャンスに変えて取り組んできた。その原動力と、そこから得られた気づきは何か。大学生の視点から地域の現場に迫る。



▼東 修斗 氏 (写真左)

あずま・しゅうと。2002年生まれ。大阪府貝塚市出身。小学生の時に、地元スポーツ少年団でコーチを務める父の影響でサッカーを始める。大阪府立和泉高等学校に入学し、サッカー部に多大な影響をもたらす。2023年度、和歌山大学3回生在学中に同大学体育会サッカー部主将。サッカー一面に留まらず同部を大きくし、次世代につなぐことが目標。

▼日本青年団協議会会長 中国 謙二

なかのの・けんじ。1980年生まれ。岡山県倉敷市在住。2008年、岡山県青年団協議会に入会。日本青年団協議会役員を経て、2020年より同会長。

◆子どもたちの憧れとなるサッカー部を

(中園) コロナ禍で、みなさんの部活がピンチに陥ったときのことを教えてください。

(東) 2022年春の新入生が1人でしたし、その後辞めてしまつて。新入生勧誘の準備も、コロナでなかなかできず。でも僕は、「この新入生不足はコロナのせいじゃない」と思つたんです。だったら「将来はサッカー部に入るために和歌山大学をめざそう」と、地元の子どもの憧れになれる姿を僕らが見せることが、知名度アップと将来の部員獲得につながるんじゃないかと。その頃、関西の他の大学のサッカー部員と話す中で、高校生との試合の後に説明会をしたり地域での交通安全協賛をもらっていることを聞きました。大学生には時間もありません。遊ぶこともできないのに、選んでサッカーをするその意味を、他大学の

◆熱量と企画の両立

(中園) 知名度アップのため、具体的には何をしていますか。

(東) スポ少のサッカーチームに足を運んだり、地域のお祭りで交通整理や出店手伝いのボランティアをしています。また交通安全の旗を持つて、通学路の交通整理を月2回ほどやっています。それがきっかけで小学1年生〜3年生の体育の授業を受け持たせてもらいました。サッカー部員が先生方と相談しながら内容を企画して、平日の毎日、交代で小学生にサッカーを教えるのは男性の先生でも難しく。そのため、子どもたちの上達が早く、楽しんで、と先生方にも好評です。

◆社会で生きる力とは

(中園) クラウドファンディングにも取り組んだそうですね。

(東) 国立大学なのでお金を集めることへの規制もあつたのですが、OBと協力して行いました。地域の店にポスターを貼ってもらったりチラシを置いてもらつて、数日で最初のゴールを達成できました。取り組んだ目的の一つはサッカー部の認知拡大だったので、SNS発信だけでなく地元のお店に直接働きかけていきました。

(東) 大学の部活なので相手にされないと思つていましたが、僕らのことを伝えてみるとみなさんが興味持つて積極的に聞いてくれたりして、とても嬉しく。今すぐには難しくとも、大きな大会を和歌山で開催する時、僕らを応援してくれる地元の人でスタジアムを満員にできたら。

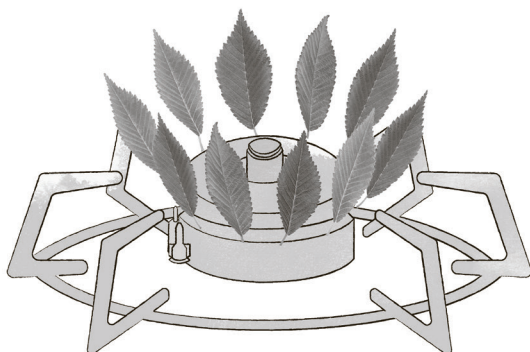
(中園) 困ったときに「助けて」と言えない若者が多いなと感じますが、そこそ生きていく上で活きるはず。みなさんは社会で一歩リードできるのでは。

(東) まさにそう。僕はプロになるわけではないので、サッカー経験を活かして社会に出て会社を引張つていくイメージです。停滞して苦しい時でも、誰かに少し自分の想いを伝えた時、良い反応があれば行動に移しやすい。おかげで僕らも少しずつプロジェクトが大きくなりました。まずは、話して行動するところからです。

未来をつむぐ エネルギー TOKYO GAS GROUP

想像を超えろ。

脱炭素社会実現へ——
石油や石炭が主なエネルギーだった1960年代、エネルギー需要の拡大や大気汚染などの社会課題がありました。その時、私たち東京ガスグループは、優れた環境性と経済性を備えた「天然ガス」を導入し、東京に青い空を取り戻しました。そして今、私たちは、脱炭素社会実現に向けた新たな取り組みをスタートさせています。「想像を超える」新しいエネルギーのかたちを実現することで、持続可能な地球環境に貢献します。私たちの「CO₂ネットゼロ」への取り組みにご期待ください。



東京ガスグループの取り組みはこちらから▼



OTHERS


～地域で活動する若者たち～

vol. 1

クリネクション 学生団体 CRENECTION

地域には青年団のほかにも若者団体が数多く存在する。多様化が進む社会で、さまざまな団体や立場の人たちと青年団とが力を合わせていけるよう、本企画ではその運営や組織体系、その特色などを紹介していく。

今号では、(一財)日本青年館の「全国まちづくり若者サミット」でも発表し、ウェブマガジンの配信や地域での団体交流など若者たちをターゲットに幅広く取り組む学生団体クリネクションを取り上げる。



新メンバー


学生募集中心!

学生歓迎

同世代の仲間と一緒に様々な活動に取り組むことができます。地域活性に興味のある方、何かに新しいことに挑戦したいと思っっている方大歓迎です！ぜひお気軽にご応募ください！

活動内容 団体取材、イベント企画など
分野 まちづくり/地域活性/交流
活動日 毎週火曜日 21:00～22:30@zoom

応募フォーム




メンバーどうしが時間を合わせてオンライン上に集まっている。メンバーの多くはInstagramなど、SNS経由で加入。オンラインの良さを最大限に活用して、組織を構成している。

◆若者の架け橋に

過疎化、少子高齢化が各地で叫ばれる中、地域を盛り上げたいと思う若者は近年、青年団のほかにもさまざまな分野で増えている。しかし、当事者の若者たちは地域の垣根をこえてつながる場所や機会があまりないと感じている。そんな若者たちの想いを受け、地域で活動する若者の架け橋になると、学生団体クリネクションは2019年4月に設立された。

◆半数以上は学生

団体名のCRENECTIONとは、create(創造する)とconnection(つながり)の一部を使った造語で、地域で活動する若者どうしのつながりを創造することをミッションとする。メンバーの半数以上は大学生で、女性の参加が6割を超える。InstagramをはじめとするSNSを見て団体の存在や活動を知り、全国から参加するケ

◆地域で活躍する若者たちを

取り組みの中で大きいのが、noteを使った地域活性ウェブマガジンの配信である。CRENECTIONのメンバーが、地域で活躍する若者たちにインタビューして記事にする。取材先はメンバーが独自に

◆切磋琢磨する社会を

決める。ウェブマガジンを通じて若者どうしが互いの活動を知りながらきつかけになるよう工夫されている。来たる12月16日(土)に、CRENECTIONは人と人、地域と地域のつながりをつくることをめざして、「首都圏まちづくり若者サミット」を神奈川県横須賀市で開催する。この事業を2023年1月に日本青年館が開催した際、CRENECTIONは企画・運営に携わった。代表の城田空さん(21)は、「これからの問題を地域で解決しようと奔走する若者たちは、青年団をはじめたくさんいます。私は、地域から日本を変える若者が切磋琢磨する社会を実現し、日本のまちづくりをこれからも加速させたい」と今後の展望を語ってくれた。



CRENECTION
Webサイトはこちらから

毎月17日発売!

月刊 社会教育

創刊1957年。実践家と研究者による市民のための社会教育総合誌。公共施設や教育施設における社会教育はいまどうあるべきか。毎号幅広いテーマで社会教育の在り方を見つめます。

定価：本体741円＋税



旬報社 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町544 中川ビル4F
TEL03-5579-8973 FAX03-5579-8975 http://www.junposha.com/

日本青年館ホール 検索

「日本青年館ホール」で検索、もしくは右記QRコードよりお読みください。





〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番1号
TEL:03-6447-5660
ACCESS: 東京メトロ銀座線 外苑前駅2b出口より徒歩5分

私たちは日本の社会教育と全国の青年団を応援しています。

OPINION 何人寄れば文殊の知恵？

「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがある。一人で考えて名案が浮かばなくとも、三人集まれば良い知恵が出てくる、という意味だが、複数人が集まったら出てくるのは知恵だけではないはずだ。

青年団で仲間と苦楽を共にするうちに、だんだんと意識が変化してきた、という青年団OBの話を書く機会があった。それまで見向きもしなかったこと——国際交流や平和の大切さ、子どもに向けた取り組みなど——に青年団で出会い、仲間と取り組む中でだんだん大切さを自覚していったことが、その後の活動でのアイデアや考え方に大きな影響を与えた。仕事や地域活動にもいかされている、という。

世の中には、自分の力だけでは解決できない機会が溢れている。新しいことに挑戦する際に思わぬ課題に直面する

こと、上司から不条理な命令を受けること、家族や友人からの一言で孤独感を感じる事……。こうした時、共に悩み歩んでくれる人の存在は、新たな道を切り拓く力となる。自分は何をしたらいいかわからない、という場合にも一筋の光をくれるのは仲間の存在ではないか。

さらに地域という舞台を前提にすれば、仲間の役割はより大きくなる。現在、地域コミュニティの崩壊が叫ばれて久しい。しかし例えば、若者が仲間と一緒に何かに取り組むこと自体が、コミュニティの形成とは呼べないものか。「三人寄って」活動した時に得られるものは知恵だけではない。自分の考え方が成長し、一人でできないこともできるようになる。未来への希望を育てている若者には、勇気をもって仲間と取り組んでいってほしい。

これからも
活動頑張ります



青年会に入会したきっかけは、小学校でのリーダーシップへ参加したことだった。青年会のお兄さんお姉さんのおかげでとても楽しめたことから、私もやりたい、と思えた。後ろ姿を見て育つうち、キャンプや事業を通じて子どもに関わっていきたく感じたことが決め手になった。石黒さんが青年会に入り、初めての活動でキャンプに参加したときのこと。当初想像していた楽しみや接し方は、実際に取り組んでみると違っていった。子

どもたちへの接し方、話しかけ方は、上の世代や同世代へのそれと大きく異なっていることを実感した。思うようにはいかないなかで、コミュニケーションの取り方に悩みながらも、自分なりに考え行動したことが経験になったという。将来は、子ども関係の仕事に就きたい想いもある。今後のためにも、青年会員や子どもたちとのかわりを持ちつつ、今後の活動につなげていきたいと目標を掲げている。

●石井寿弥支局員（香川県連合青年会）より投稿



綾川町青年会と
これから
石黒 夢依さん
(香川県・綾川町青年会)

編集後記

「少しでも『硬い』要素が感じられたら、人はついてこない」「組織の格や歴史などと言っている場合ではない」「『ジジイ何言ってるんだ』と本質を突く中高生を放って良いわけがない（どんどん取り込まないと）」……これらは、10月1日に行われた雑誌「社会教育」のオンライン集会で、名だたる社会教育関係者から出てきた声の数々です。心に留めて取り組んでいきます。(ひ)



最新の
情報は
こちら

<https://www.facebook.com/nisseikyo01/>

はらぺこ青年団

地元の名物を支局員が青年団のエピソードとあわせてご紹介。

青年団といえば飲み会。山口県長門市で活動する三隅青年団も、事業の後は『さつき』に集合で」とグループLINEに書き込まれるのがお約束だ。というわけで、今回紹介するのは地元で人気の老舗「お好み焼・鉄板焼さつき」。お好み焼きはもちろん肉料理のメニューも人気のお店。ここに来たら必ず頼むべきは「もつ鍋」である。煮て柔らかくなった野菜とプルプルのもつに、お好みで豆板醤を入れて食べるのがたまらなく旨い。お店も実家のような暖かい雰囲気、気軽に飲みに行ける「さつき」がみんな大好きである。



●久保博成支局員（山口県青年団）より投稿